

ごあいさつ

平素は私ども飯田信用金庫をご愛顧たまわり、誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

みなさまがたに私どもの業績をよりよく理解していただくため、今年も「HOTLINE2007」を作成しました。本冊子をご高覧いただき、当金庫の現在の姿をご賢察いただければ幸いです。



当金庫では、飯田市橋南第二地区市街地再開発事業に協力して建設に取り組んでまいりました新本店が完成し、平成18年9月19日から営業を開始いたしました。これもひとえに地域のみなさまのご支援のたまものと心よりお礼申し上げます。地元金融機関として、地域のみなさまへの感謝の気持ちを片時も忘ることなく、これからも地域の発展に貢献してまいる所存です。なお、新本店の完成に際しましては、お取引先や地域のみなさまにご披露申し上げるべきところでしたが、飯田下伊那地域の将来を担っていく子供達のため、小・中学校等へ図書の購入費用等の寄付に代えさせていただきました。なにとぞご理解をお願い申し上げます。

さて、平成18年度の日本経済は緩やかながらも息の長い回復が続き、景気回復局面はいざなぎ景気を超えて戦後最長を更新しておりますが、東海地区など製造業の集積が厚い地域や大都市圏の景気が堅調な一方、地方圏では回復の実感に乏しい状況となっております。

飯伊の地域経済については、同業種内での企業間格差がやや広がる傾向が見られ、当金庫窓口における事業性資金の需資からは設備投資に慎重な姿勢が続いた1年でありました。

当金庫の業績では、法人預金は低調でしたが個人預金残高は順調に推移しており、また、個人年金保険、個人向け国債、投資信託を合わせた個人預かり資産の期末残高は前期末比50億95百万円増加して、121億60百万円となりました。

一方、貸出金は、法人向け残高は前年比マイナスとなりましたが、個人向け貸出は住宅ローンを中心的に取り組んだ結果、貸出金全体としては前期末比0.66%の増加となりました。

収益では、昨年に引き続き不良債権処理を積極的に進め、資産の健全化をはかったことに加え、新本店の建設に伴う経費の増加が収益の圧迫要因となりましたが、有価証券運用利回りが前期を大きく上回ったこと、および、株式等売却益が大きく増加したこと等から、業務純益、経常利益はいずれも前期を上回りました。なお、当期純利益につきましては、課税所得の増加に伴い法人税等が大幅に増加したことにより、前期を下回りました。

平成19年度は、地区内トップシェアの地元金融機関として引き続き貸出需要への積極的な対応や企業支援に取り組むとともに、地域貢献をさらに強力に推し進めて参ります。また、金融商品販売法などの法令遵守体制の整備と、偽造キャッシュカード問題、不正口座利用による犯罪の防止等社会的要請にも積極的に取り組み、みなさまの期待に応えてまいります。

今後も飯田信用金庫は、地域社会発展のために努力していく所存ですので、みなさまがたには、今後とも飯田信用金庫をご愛顧たまわりますようお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

理事長 池田征人